



平成29年2月10日

各 位

トモニホールディングスグループの平成29年3月期第3四半期決算概要について

トモニホールディングス（本社：香川県高松市、社長：遠山誠司）は、平成29年3月期第3四半期（平成28年4月1日～平成28年12月31日）連結業績等の概要と、当社グループの中核企業である徳島銀行（本店：徳島県徳島市、頭取：吉岡宏美）、香川銀行（本店：香川県高松市、頭取：下村正治）及び大正銀行（本店：大阪府中央区、頭取：吉田雅昭）の単体業績等の概要について発表いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. トモニホールディングス

(1) 平成29年3月期第3四半期（平成28年4月1日～平成28年12月31日）連結業績

当社は、平成28年4月1日付で、大正銀行と株式交換方式による経営統合（以下「本経営統合」という。）を実施いたしました。大阪地区を主要営業基盤とする大正銀行を傘下に加えることにより、広域金融グループの更なる進化を図り、将来の持続的成長に向けた経営基盤・事業基盤を拡充するとともに、今後の地域経済や金融機関の経営環境の変化を踏まえ、広域ネットワークの活用、各々の強みや各種ノウハウの共有・活用により、成長戦略の実現と付加価値の高い金融サービスの提供を行い、地方創生と地域経済の発展に貢献することを目指しております。

当第3四半期における損益状況は、経常収益は、本経営統合に伴い資金運用収益が増加したほか、国債等債券売却益及び株式等売却益が増加したこと等により、前年同期比8,757百万円増加して53,738百万円となりました。経常費用は、与信関連費用が減少したものの、本経営統合に伴い営業経費が増加したこと等により、前年同期比5,638百万円増加して40,511百万円となりました。その結果、経常利益は前年同期比3,118百万円増加して13,226百万円となりました。また、本経営統合に係る特別利益として負ののれん発生益14,849百万円を計上したことにより、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比17,519百万円増加して23,855百万円となりました。

当第3四半期末における総資産は前年度末比5,664億円増加して3兆6,464億円となり、純資産は前年度末比269億円増加して2,107億円となりました。

また、主要な勘定の残高につきましては、譲渡性預金を含む預金等残高は前年度末比5,226億円増加して3兆2,797億円、貸出金残高は前年度末比4,689億円増加して2兆4,914億円、有価証券残高は前年度末比85億円増加して8,197億円となりました。

| | | 平成29年3月期 第3四半期 | |
|--------|------------------|--------------------|-----------|
| | | | 前年同期比 |
| 損益 | 経常収益 | 53,738百万円 | 8,757百万円 |
| | 経常費用 | 40,511百万円 | 5,638百万円 |
| | 経常利益 | 13,226百万円 | 3,118百万円 |
| | 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 23,855百万円 | 17,519百万円 |
| | | 平成29年3月期 第3四半期末 | |
| | | | 前年度末比 |
| 主要勘定残高 | 総資産 | 36,464億円 | 5,664億円 |
| | 純資産 | 2,107億円 | 269億円 |
| | 預金等（譲渡性預金を含む） | 32,797億円 | 5,226億円 |
| | 貸出金 | 24,914億円 | 4,689億円 |
| | 有価証券 | 8,197億円 | 85億円 |

(2) 平成29年3月期通期（平成28年4月1日～平成29年3月31日）連結業績予想

平成28年11月14日に公表しております平成29年3月期通期の連結業績予想につきましては、修正ございません。

2. 徳島銀行

○ 平成29年3月期第3四半期（平成28年4月1日～平成28年12月31日）単体業績

当第3四半期の損益状況は、経常収益は、利回りの低下により貸出金利息が減少したものの、有価証券利息配当金及び国債等債券売却益が増加したこと等により、前年同期比141百万円増加して18,983百万円となりました。

また、コア業務粗利益は、外国為替売買損が増加したこと等により、前年同期比649百万円減少して14,947百万円、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、前年同期比509百万円減少して4,757百万円となりました。

経常利益は、与信関連費用が減少したこと等により、前年同期比585百万円増加して4,643百万円となり、四半期純利益は、前年同期比588百万円増加して3,405百万円となりました。

当第3四半期末の主要勘定残高の状況は、譲渡性預金を含む預金等残高は、個人・法人預金ともに増加し、前年度末比581億円増加して1兆4,383億円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前年度末比564億円増加して1兆5,600億円となりました。また、貸出金残高は、中小企業・個人向け貸出等に積極的に取組みました結果、前年度末比326億円増加して9,572億円となりました。

金融再生法開示債権額は、取引先企業の事業再生・経営改善への積極的な取組みによる債務者区分のランクアップや不良債権の積極的な回収を図りました結果、前年度末比373百万円減少して19,876百万円、総与信に占める割合は2.04%となりました。

| | | 平成29年3月期 第3四半期 | |
|--------|---------------|--------------------|---------|
| | | | 前年同期比 |
| 損益 | 経常収益 | 18,983百万円 | 141百万円 |
| | コア業務粗利益 | 14,947百万円 | △649百万円 |
| | コア業務純益 | 4,757百万円 | △509百万円 |
| | 経常利益 | 4,643百万円 | 585百万円 |
| | 四半期純利益 | 3,405百万円 | 588百万円 |
| | 与信関連費用 | 600百万円 | △864百万円 |
| | | 平成29年3月期 第3四半期末 | |
| | | | 前年度末比 |
| 主要勘定残高 | 総資産 | 15,927億円 | 576億円 |
| | 預金等（譲渡性預金を含む） | 14,383億円 | 581億円 |
| | 総預り資産 | 15,600億円 | 564億円 |
| | 貸出金 | 9,572億円 | 326億円 |
| | 有価証券 | 4,695億円 | △204億円 |
| 不良債権 | 金融再生法開示債権額 | 19,876百万円 | △373百万円 |
| | 総与信に占める割合 | 2.04% | △0.12% |

3. 香川銀行

○ 平成29年3月期第3四半期（平成28年4月1日～平成28年12月31日）単体業績

当第3四半期の損益状況は、経常収益は、利回りの低下により貸出金利息が減少しましたが、国債等債券売却益や株式等売却益が増加したこと等により、前年同期比1,690百万円増加して22,717百万円となりました。

また、コア業務粗利益は、役員取引等利益が増加したこと等により、前年同期比272百万円増加して17,301百万円、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、前年同期比387百万円増加して6,357百万円となりました。

経常利益は、与信関連費用の減少や株式等関係損益の増加等により、前年同期比1,073百万円増加して6,757百万円、四半期純利益は前年同期比982百万円増加して4,383百万円となりました。

当第3四半期末の主要勘定残高の状況は、譲渡性預金を含む預金等残高は、個人・法人預金ともに増加し、前年度末比454億円増加して1兆4,269億円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前年度末比443億円増加して1兆5,794億円となりました。また、貸出金残高は、中小企業・個人向け貸出等に積極的に取組みました結果、前年度末比589億円増加して1兆1,649億円となりました。

金融再生法開示債権額は、取引先企業の事業再生・経営改善への積極的な取組みによる債務者区分のランクアップや不良債権の積極的な回収を図りました結果、前年度末比303百万円減少して23,307百万円、総与信に占める割合は1.98%となりました。

| | | 平成29年3月期 第3四半期 | |
|--------|---------------|--------------------|----------|
| | | | 前年同期比 |
| 損益 | 経常収益 | 22,717百万円 | 1,690百万円 |
| | コア業務粗利益 | 17,301百万円 | 272百万円 |
| | コア業務純益 | 6,357百万円 | 387百万円 |
| | 経常利益 | 6,757百万円 | 1,073百万円 |
| | 四半期純利益 | 4,383百万円 | 982百万円 |
| | 与信関連費用 | 190百万円 | △623百万円 |
| | | 平成29年3月期 第3四半期末 | |
| | | | 前年度末比 |
| 主要勘定残高 | 総資産 | 15,889億円 | 429億円 |
| | 預金等（譲渡性預金を含む） | 14,269億円 | 454億円 |
| | 総預り資産 | 15,794億円 | 443億円 |
| | 貸出金 | 11,649億円 | 589億円 |
| | 有価証券 | 3,078億円 | △117億円 |
| 不良債権 | 金融再生法開示債権額 | 23,307百万円 | △303百万円 |
| | 総与信に占める割合 | 1.98% | △0.13% |

4. 大正銀行

○ 平成29年3月期第3四半期（平成28年4月1日～平成28年12月31日）単体業績

当第3四半期の損益状況は、経常収益は、利回りの低下により貸出金利息が減少したことや国債等債券売却益が減少したこと等により、前年同期比271百万円減少して6,999百万円となりました。

また、コア業務粗利益は、資金利益が減少したこと等により、前年同期比131百万円減少して5,768百万円、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、前年同期比3百万円減少して904百万円となりました。

経常利益は、与信関連費用は減少しましたが、株式等売却損が増加したこと等により、前年同期比275百万円減少して869百万円となり、四半期純利益は、前年同期比16百万円減少して550百万円となりました。

当第3四半期末の主要勘定残高の状況は、預金残高は、前年度末比70億円増加して4,386億円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前年度末比98億円増加して4,585億円となりました。また、貸出金残高は、中小企業・個人向け貸出等に積極的に取組みました結果、前年度末比61億円増加して3,775億円となりました。

金融再生法開示債権額は、取引先企業の事業再生・経営改善への積極的な取組みによる債務者区分のランクアップや不良債権の積極的な回収を図りました結果、前年度末比1,283百万円減少して6,352百万円、総与信に占める割合は1.67%となりました。

| | | 平成29年3月期 第3四半期 | |
|--------|------------|--------------------|-----------|
| | | | 前年同期比 |
| 損益 | 経常収益 | 6,999百万円 | △271百万円 |
| | コア業務粗利益 | 5,768百万円 | △131百万円 |
| | コア業務純益 | 904百万円 | △3百万円 |
| | 経常利益 | 869百万円 | △275百万円 |
| | 四半期純利益 | 550百万円 | △16百万円 |
| | 与信関連費用 | △208百万円 | △209百万円 |
| | | 平成29年3月期 第3四半期末 | |
| | | | 前年度末比 |
| 主要勘定残高 | 総資産 | 4,856億円 | 76億円 |
| | 預金 | 4,386億円 | 70億円 |
| | 総預り資産 | 4,585億円 | 98億円 |
| | 貸出金 | 3,775億円 | 61億円 |
| | 有価証券 | 404億円 | △50億円 |
| 不良債権 | 金融再生法開示債権額 | 6,352百万円 | △1,283百万円 |
| | 総与信に占める割合 | 1.67% | △0.38% |

以上

【本件に関するお問い合わせ先】

トモニホールディングス株式会社 経営企画部
 株式会社徳島銀行 企画部
 株式会社香川銀行 総合企画部
 株式会社大正銀行 企画部

TEL：087-812-0102
 TEL：088-656-1118
 TEL：087-812-5132
 TEL：06-6205-8400